

# He waved a taxi to stop について：

その文意と含意

登 田 龍 彦

## On *He waved a taxi to stop*: Its Sentence Meaning and Implicature

Tatsuhiko TODA

(Received October 1, 2014)

### 1. はじめに

小論の目的は、『ジーニアス英和辞典（第四版）』（2006）が動詞 *wave* の他動詞用法（s.v. *Wave* ㊸③）として挙げている目的語と不定詞節を伴う英文（1a）（以下 *wave* 構文）の日本語訳（1b）は妥当でないことを指摘すると同時に、（1b）の中の「（呼び）止めた」の意味は含意（implicature）であると主張することである。

- (1) a. He waved a taxi to stop.  
b. 彼は手を振ってタクシーを呼び止めた。

小論の構成は以下の通りである。先ず第2節で英文（1a）と訳文（1b）について吟味し、『ジーニアス英和辞典（第四版）』の記述が「タクシーが止まった」ことを意味していることを確認する。第3節では、英文（1a）は、「タクシーが止まった」ことを意味するものではないことを、母語話者の判断を示す証拠を引用しながら論証する。第4節では、*wave* 以外の動詞と関連させながら動詞とその構文と意味の関係について議論する。第5節では、問題の *wave* 構文と二重目的語構文との平行性について新たな提案をし、最後に主張をまとめる。

### 2. 『ジーニアス英和辞典（第四版）』の主張：前置詞の有無に伴う意味の区別

『ジーニアス英和辞典（第四版）』は、*wave* の自動詞用法の中で例文（2a）を挙げ、他動詞用法の場合と異なる（2b）の日本語訳を付している。

- (2) a. He waved to her to pull it.  
b. 彼は〔彼女（の方）に〕手を振ってそれを引けと合図した。

（2a）の *wave* は後に前置詞 *to* を伴う自動詞用法である。この場合、日本語訳（2b）では「（引けと）合図した」ことを意味し、実際に「（彼女が）それを引いた」と訳されていない。この点が、「（呼び）止めた」とする他動詞用法の（1a）の場合と大きく異なっている。

小論で問題にしているのは、不定詞節内の出来事が実際に起きたかどうかということである。他動詞用法と自動詞用法では、動詞の表す意味が目的語に影響を与えるかどうかで大きな違いがあることは、Schlesinger（1995）をはじめ多くの言語学者が指摘している周知の事実である。この点については後で議論することにして、先ず（1b）の日本語「呼び止めた」について考察しておく必要がある。『広辞苑（第六版）』は、「呼び止める」について、（3）のように記述している。

- (3) 呼び止める：声をかけて止らせる。

(3) の「声をかけて止らせる」からも明らかなように、「呼び止めた」ということは、「声をかけて止らせた」とことになり、(1b)における問題のタクシーは止ったことになる。この推論が正しいことは、日本語では(4)のような文が容認されないことから傍証される。

(4) \*彼は手を振ってタクシーを呼び止めたが、タクシーは止らなかった。

(4)の先行節では「タクシーを呼び止めた」という意味が「タクシーが止まった」という意味を表しているにもかかわらず、後続節でその事実を打ち消す意味「タクシーは止らなかった」が表現されているので、(4)は容認されない。

本節では、日本語の「タクシーを呼び止めた」は、「タクシーが止った」ことを意味することを確認した。次節では、問題の英文 *He waved a taxi to stop* の意味について考察する。

### 3. *He waved a taxi to stop* 構文

(1a) *He waved a taxi to stop* の文が「タクシーが止ったこと」を意味しているかどうかを調べるために、「しかしタクシーは止らなかった」という意味の文 *but it did not stop* を後続させることができるかどうか母語話者であるインフォーマントにテストしてみたところ、皆容認できると判断した。ただし、母語話者の中には、他動詞用法の(5a)のほうが自動詞用法の(5b)よりも普通であると判断しているものもいた。<sup>1</sup>

- (5) a. *He waved a taxi to stop, but it didn't stop.*  
b. *He waved to a taxi to stop, but it didn't stop.*

(5a, b)の容認性からも明らかなように、動詞 *wave* の他動詞用法及び前置詞付きの自動詞用法において「しかしタクシーは止らなかった」という意味の文 *but it did not stop* を後続させることが出来ることから、先行文 *He waved (to) a taxi to stop* は「タクシーが止ったということ」を意味してない。これを踏まえると、(1a) *He waved a taxi to stop* の日本語訳は(6)のようになるであろう。

(6) 彼は手を振ってタクシーに止るように合図した。

では、動詞 *wave* の他動詞用法及び前置詞付きの自動詞用法において意味の違いがあるとする、どのような違いがあるであろうか。先ず手始めに、問題文の後続文として「しかし運転手は気がつかなかった」(*but the driver didn't notice him*)を追加してみて、タクシーに手を振ったことが知覚されていたかどうかについて考えてみよう。

- (7) a. *He waved a taxi to stop. but the driver didn't notice him.*  
b. (\*)*He waved to a taxi to stop. but the driver didn't notice him.*  
c. *He waved at a taxi to stop. but the driver didn't notice him.*

(7a)の容認性から、先行文 *He waved a taxi to stop* はタクシーが止るところかタクシー運転手にも手を振ったことを気づかれることも意味していない。タクシーが止るとか手振りが気づかれるという意味は、文が表す意味論的意味(semantic meaning)ではなく、ただ単に語用論的意味(pragmatic meaning)の含意に他ならないことが明らかである。

(7b)の容認性に問題があるとするインフォーマントがいたが、問題は *wave to* の場合は、(8a)のような挨拶の場合の表現であり、(7c)のように *wave at* の表現が普通であるという。ただし、OEDの例(8b)にもあるように *wave to* は小論で問題にしている不定詞補文としては確立しているという立場で議論を進める。この点については後述する。

- (8) a. He saw his father on the station and waved to him.  
 b. 1847 C. Brontë J. Eyre xii, I retained my station when he waved to me to go, and announced: — 'I cannot think of leaving you, sir.' (OED sv. *Wave* 10c.)

前置詞の有無による手振り行為の認知度の違いが無いことが明らかになった。前置詞 *at* と *to* の語法上の相違については、動詞 *wink* の場合について議論する際に再度取り上げて議論することにしたい。問題は、*He waved a taxi to stop* には「タクシーが止まった」という文意は無いということであり、この点が『ジーニアス英和辞典（第四版）』の記述の不備を示すという意味で重要である。

ちなみに、「タクシーが止まったこと」を明確に表現するには、『ジーニアス英和辞典（第四版）』（さらに『研究社新英和大辞典』）に「手を振って止める」と訳されている *wave down* を使用すれば、ことたりるかどうか吟味する必要がある。インフォーマントが示した興味深い (9a) と (9b) の容認性の違いに注意しなければならない。

- (9) a. \*He waved a taxi down, but the driver didn't notice him.  
 b. He waved a taxi down, but the driver didn't stop.  
 c. He waved down a taxi, but the driver didn't stop.  
 d. He tried to wave down a taxi, but the driver didn't notice him.

(9a) では後続文に「気づきもしなかった」という英文が来る場合は意味の衝突つまり不自然な意味の流れから容認されないのに対して、(9b, c) では「車が止まらなかった」と言っても意味の衝突が起らないので容認されるという事実がある。このことからすると、*wave down* は「手を振って止める」というよりは「車を止めるために手をふって知らせる」というのが妥当な文の意味であることになる。*wave down* は意味として「信号を相手に伝える」ことはあっても、「(車を) 止める」意味はないということになる。

(9a) をもしあえて自然な文意の流れにしようとするれば、(9d) のように *try to wave down a taxi* (手を振って止めようとする) というように *try to* 構文を使用しなければならない。

ただし、Bolinger (1977) も指摘するように、不変化詞 (*particle*) が動詞の直後に来る場合は行為そのものの遂行に焦点を当てるということがある。例えば、(10a) では綱をたぐり寄せる行為そのものに焦点があり、綱がたぐり寄せられたことは意味していないので、「たぐり寄せられなかった」という文が後続しても意味の矛盾は生じない。これに対して、(10b) では不変化詞が目的語の後に来て *the lines were in* の状態であり、つまり綱はたぐり寄せられていて、後続文との意味の衝突が生じて容認されないというものである。

- (10) a. They hailed in the lines but didn't get them in.  
 b. \*They hailed the lines in but didn't get them in. (Bolinger 1977: 17)

(9b) と (10a, b) における動詞と不変化詞 (*particle*) の句の用法における母語話者の容認性判断の相違が *wave (down)* と *haul (in)* の語彙的特性によるものかどうかは現時点では明らかではなく、この問題については今後の調査研究に委ねることとする。

以上の議論から、*He waved a taxi to stop* 構文は『ジーニアス英和辞典（第四版）』が記述するような「彼は手を振ってタクシーを呼び止めた」の文意を表すのではなく「彼は手を振ってタクシーに止るように合図した」の意味を表すものであるということが明らかになった。さらには *wave down* も「手を振って止める」というのではなく「車を止めるために手をふって知らせる」というのが妥当な意味論的意味と言える。問題の「(車が) 止る」という意味は、打ち消される (*cancelable*) ということからして語用論的な意味つまり含意 (*implicature*) であると思われる。補足として OED をはじめいくつかの英英辞書の *wave down* の説明を (11) に挙げておく。

- (11) a. *wave at* (a driver of a vehicle) as a signal to stop; also with the vehicle as object. (OED)  
 b. *wave to* (a vehicle or its driver) as a signal to stop (COD<sup>9</sup>)  
 c. *wave one's hand to stop* a driver or vehicle (COD<sup>12</sup>)  
 d. *signal to the driver or a car to stop by waving your arm at them* (LDCE<sup>3new</sup>)

辞書記述には、「車が止まるように手を振る」という合図をする意味しかないように思える。

次に問題となることは、He waved a taxi to stop 構文の構造についてである。大雑把に言って、本構文は与格目的語 a taxi と不定詞補文 to stop を伴い、目的語がコントローラー (controller) になる構文型を示している。

まず、問題の動詞 wave の特徴付けについて触れておかななくてはならない。Levin (1993) は動詞 wave を身体部位を含む身振り／合図動詞 (verbs of gestures/signs involving body parts) の中の wink 動詞 (wink verbs) に分類し、blink (eye), clap (hands), nod (head), point (finger), shrug (shoulders), squint (eyes), wag (tail), wink (eye) 等の動詞を含めている。

登田 (2006) は (12) のような二重目的語構文と与格構文に生起する動詞 wave と他の hug や kiss の動詞の分析において、Huddleston and Pullum (2002: 305) の記述に従い、非言語的伝達動詞 (non-verbal communication verbs) と呼んでいる。

- (12) a. The nurse came out to wave Granddad good-bye.  
b. She waved good-bye to him through the car window.  
c. Wave good-bye to Grandma, Charlie.

Cilicover and Jackendoff (2005: 438) は (13) のような例を引用し、shout, say, yell, call, signal 等の伝達動詞 (communication verbs) は命令や忠告を表し、不定詞補文のコントローラーは前置詞 to の目的語である聞き手 (addressee) である述べている。

- (13) a. John shouted (to Sally) for Harriet to leave.  
b. John<sub>i</sub> shouted to Sally<sub>j</sub> to <sub>j</sub>/\*<sub>i</sub> take care of herself/\*himself/\*themselves.

小論では、問題の wave 構文を非言語的伝達動詞における不定詞補文と呼び、考察する。本構文には他に (14b-d) に示すような 3 パターンがあるが、どのような関係にあるか議論しておく必要がある。

- (14) a. He waved a taxi to stop.  
b. He waved to a taxi to stop.  
c. He waved at a taxi to stop.  
d. He waved for a taxi to stop.

(14a-d) に見られる各構文の生起を見る根拠資料として、Google N-gram viewer を利用した経年変化を Figure 1 (次頁) に示す。

Figure 1 には不定詞補文ではなく場所・方向を示す前置詞句が来る場合も含んでいるため、不定詞補文の例を (15) に挙げておく (出典名の最後の数字は出版年数である。下線筆者 (以下同様))。

- (15) a. She was clad in black, and held in her hand a white wand, with which she waved me to approach. I certainly felt myself impressed with awe and terror, by the solemnity and stillness which reigned around; and it was with sensations, which . . . Tobias George Smollett, *The Critical Review*, 1810.  
b. According to Kakhyen custom, I dismounted before entering, and, seeing some women standing at the door of the first house, indicated by signs that I desired to know the road. They sulkily waved to me to go on upwards. Imagining that the end ... — John Anderson, Edward Bosc Sladen, Horace Albert Browne, *Mandalay to Momien*, 1876.  
c. Mr. Phillips is the head, you know. “Poor man,” she said, in a nasty way. “He’s in the Upper Third, and so am I, and we thought —” She waved at me to stop. “Which ankle is it?” “The right,” I told her, as Tomlin seemed too frightened to answer. — *The London Magazine*, vol. 6, 1901.  
d. ... the Guadalquivir, whilst with his left hand he waved for me to pass on, was at least entitled to an acknowledgement, and this was in turn a fair introduction to the discourse which followed. He soon learned that I was a stranger — an American ... — Sholto Percy, Reuben Percy, *The Percy Anecdotes*,

1832.



Figure 1. Frequency of *waved me to*, *waved to me to*, *waved at me to*, and *waved for me to* in Google N-gram viewer, 1800-2000

Figure 1 から分かるように、問題の (14a) と (15a) のような与格目的語を伴う wave 構文は 19 世紀初頭から使用され始めて 20 世紀には一般化していると言える。

OED は、不定詞補文を取る例として (14b) と (15b) のような to 前置詞を伴う構造を持つ 1847 年の例 (8b) ((16) として再掲) を掲載している (下線筆者)。これに対して、Google N-gram viewer では 1960 年以前の例が示されていないので、Figure 1 の示す経年変化における頻度数は一応の傾向を示すものであると言える。

- (16) 1847 C. Brontë J. Eyre xii, I retained my station when he waved to me to go, and announced: — ‘I cannot think of leaving you, sir.’ (OED s.v. *Wave* 10c.)

因みに、(11c, d) の辞書記述 *wave one's hand to stop a driver or vehicle* と *signal to the driver or a car to stop by waving your arm at them* にも見られるように、動詞 wave は目的語 (one's) hand を取る事が出来るが、(17) に見られるように問題の wave 構文に生起できない。

- (17) a. \*He waved his hand a taxi to stop.  
b. \*He waved his hand to a taxi to stop.  
c. \*He waved his hand at a taxi to stop.  
d. \*He waved his hand for a taxi to stop.

換言すれば、his hand は、与格目的語と不定詞補文を取る wave 構文では含意される意味論的項 (semantic argument) ではあり得るが、統語論的項 (syntactic argument) として具現化されないことを示している。

#### 4. wink の場合

本節では、wave 以外の非言語的伝達動詞 wink との比較考察を行う。動詞 wink は wave と異なり前置詞 at を伴う自動詞用法が普通である。インフォーマントの判断も同様に、問題としている (18b) のような他動詞用法は容認できないとしている。

- (18) a. He winked at the girl to follow.  
b. \*He winked the girl to follow.



なお, (19) が示すように, *wink* の場合も *wave* の場合と同様に, 合図によって求められている行動すなわち「随行する」という行為は実行されることも合図それ自体も気づかれることもなくとも良い。

- (19) a. He winked at the girl to follow, but she didn't follow him.  
b. He winked at the girl to follow, but she didn't notice him/it.

因に, OED (s.v. *Wink* 7a) は, (20a) に示すように, *on*, *upon* を取る用法もあったが, 後には *to*, *at* が使われ ((20b, c) 参照), 興味深いことに現代英語では廃語用法であると記述している。

- (20) a. † 7. *a intr.* To give a significant glance, as of command, direction, or invitation: usually const. *on*, *upon*, later *to*, *at*. Obs.  
b. 1821 Moncrieff Tom & Jerry ii. iii. 43 Winking at me not to take any notice.  
c. 1835 Dickens Sk. Boz, Astley's, Ma having first nodded and winked to the governess to pull the girls' frocks a little more off their shoulders.

ここで事実を確認するために, *winked at me/her*, *winked to me/her*, *winked me/her* の Google N-gram viewer における経年変化を示した Figure 2 を見てみよう。



Figure 2. Frequency of *winked at me/her*, *winked to me/her*, and *winked me/her* in Google N-gram viewer, 1700-2000

Figure 2 が示すように, *wink at* の用法はインフォーマントの指摘するように一般的である。次に, Google N-gram viewer を利用して *wink at* の不定詞補文構文の具体例をみておこう。



Figure 3. Frequency of *winked at me to* in Google N-gram viewer, 1800-2000

注意すべきこととして、Figure 3 には、(21a) の斜字体の不定詞補文 *to show she was not taking this quite seriously* のようにコントローラーが目的語 (me) ではなく主語 (Sally) であり、問題の構文 (21b) の場合とは異なるものも含まれている (斜字体と下線は筆者)。

- (21) a. *Sally winked at me to show she was not taking this quite seriously*. She beckoned me to come with her to the bar. “Look, Rita's drunk,” she said. I heard Mrs. Shaw wailing, “They get me off on a dark road and God knows what would happen to ... — *The Western Review*, 1952.
- b. But Henry winked at me to follow him out of the room. Outside Henry told me, “Look, Philip, lately you are walking around with your head in the clouds. You are so in love with Ruth that you are not able to think straight. — Philip Markowicz, *My Three Lives*, 2009.
- c. When he had passed around through the crowd, he winked me to step aside, and, as we sat down on some boxes in the freight-house, he began: “I reckon you's from up Norf?” “Yes.” “Well, say, I wanted to ax how many kinds of religun you ... — *Puck* - vol.12, no. 355, 1883.

問題の *wink at* 構文が OED の指摘するような廃語的用法とすることは、2009 年の例 (21b) と (18a) を容認するインフォーマントの判断からしても疑わしいように思える。因に、(21a) の下線部は非言語的伝達動詞 *beckon* における問題の構文である。なお、(21c) のような与格目的語が来る例もあるが、Figure 2 から分かるように一般的であるとは言えない。

動詞 *wink* は、何故動詞 *wave* とは異なり前置詞 *at* を必要とする自動詞用法が一般的であろうか。wave は *wave ones hand* などのように振る対象を目的語として取ることができるのに対して、*wink* にはこの種の目的語を取ることができない。他動性 (transitivity) の問題と言えるのではないだろうか。つまり、「瞬きする」動作と「(手を)振る」動作は、合図の対象に与える影響度からして前者が弱いということに関係があるかもしれない。ただし、この前置詞の有無にかかわると思われる他動性については、事情はそれほど簡単ではなく、(7a) で *He waved a taxi to stop, but the driver didn't notice him.* が容認されることを見たように、*wave* の他動詞用法の場合でも合図は対象者に気づかれなくても良い。<sup>2</sup>

次節では、構文文法 (construction grammar) 的視点から、問題の *wave* 構文と二重目的語構文の平行性を指摘する。

## 5. wave 構文と二重目的語構文との平行性

登田 (2006) は *I hugged him good-bye* のような非言語的伝達動詞における二重目的語構文について (22) のような分析を提唱している。

- (22) 統語論：NP<sub>1</sub> V NP<sub>2</sub> NP<sub>3</sub>  
 意味論：Y<sub>2</sub> HAVE Z<sub>3</sub>  
 手段：[VERBAL SUBEVENT: X<sub>1</sub> ACT Y<sub>2</sub>]

X<sub>1</sub> (I) が Y<sub>2</sub> (him) に対して行う手段的行為 (*hugging him*) により、Y<sub>2</sub> (him) が Z<sub>3</sub> (さよならの挨拶 *good-bye*) を所有するという意味解釈を表している。

この分析を問題の *wave* 構文に適用し、不定詞補文を名詞句と同様に扱えば、おおよその見当として (23b) のように記述できる。なお、(23b) における HAVE と *to* 不定詞節の結合は、いわゆる *have to* 構文の意味である「せざるを得ない」という意味と同じように考えることができる。

- (23) wave 構文と二重目的語構文との平行性：
- a. NP<sub>1</sub> V NP<sub>2</sub> NP<sub>3</sub> => Y<sub>2</sub> HAVE Z<sub>3</sub> (granddad) HAVE goodbye by X<sub>1</sub>'s VERB-ing (waving (ones hand))  
 The nurse waved granddad good-bye.
- b. NP<sub>1</sub> V NP<sub>2</sub> [to VP]<sub>3</sub> => Y<sub>2</sub> HAVE Z<sub>3</sub> (a taxi (driver) HAVE to stop) by X<sub>1</sub>'s VERB-ing (waving (ones

hand))

He waved a taxi to stop. (= (1a))

(23) における HAVE によって示される意味即ち「祖父がさよならの挨拶を所有する, すなわち挨拶を受ける」とか「タクシー (運転手) が停止することを所有する, すなわち停止する」という意味は, 打ち消すことの出来る含意的意味であって, 文意ではないことに注意する必要がある. このことは, (24) の容認性に見られるように, 手を振る合図さえ気づかれない場合が成立することからも明らかである.<sup>3</sup>

- (24) a. The nurse waved granddad good-bye, but he didn't notice it.  
b. He waved a taxi to stop, but the driver didn't notice him.

ただし, (25) からも窺われるように構文全体の文意の決定権は動詞にある.<sup>4</sup>

- (25) a. \*Ted {convinced/persuaded/coaxed} Susan to go to the party, but she didn't go to the party.  
b. Ted tried to {convince/persuade/coax} Susan to go to the party, but she didn't go to the party.  
c. Ted promised Susan to go to the party, but he didn't go to the party.

(25a) の convince, persuade, coax などは「説得してパーティーに行かせる」という意味を表すものであるため, スーザンは行かなかったという文を後続させると意味論的矛盾を引き起こしてしまう. なお, (25b) が示すように, 「試みる」という try to 構文にすれば, 意味論的矛盾を回避することができる. (25c) の動詞 promise の場合は, その語彙的特異性により主語の Ted が不定詞補文のコントローラーになり, 「パーティーに行くことを約束する」ことを請け負うことになる.

同様の現象が二重目的語構文においても見られる.

- (26) a. \*John handed Susan a note, but she didn't receive it. (登田 2008)  
b. He wrote his lawyer a note, but he didn't mail it. (登田 2007)  
c. He wrote Blair a letter, but I tore it up before I sent it. (Rappaport Hovav and Levin 2008)

(26a) の先行文において, 動詞 hand の場合は「手渡した」という動詞それ自体の意味故にスーザンに短い手紙が渡ったことを文意として明確に表現しているため, 後続文の「スーザンが手紙を受け取らなかった」という文意が意味的矛盾を引き起こして文全体は容認不可能となってしまう. これに対して, (26b) と (26c) の動詞 write の場合は, 「手紙を書いた」という意味の他に弁護士が手紙を受け取るという行為すなわち所有の関係が先行文では含意されるが, 後続文で投函しなかったということで含意が却下されても何ら意味の不都合は生じない.

以上, 構文文法的視点から二重目的語構文の直接目的語を問題の wave 構文の不定詞補文に拡張させた分析を提案することにより, 両構文の平行性を指摘した.<sup>5</sup>

## 6. おわりに

小論の議論では, 『ジーニアス英和辞典 (第四版)』の例文 He waved a taxi to stop の表す意味すなわち文意とその含意を区別すべきであるという視点から考察し, 以下の点を明らかにした.

- (27) a. He waved a taxi to stop の文意は, 『ジーニアス英和辞典 (第四版)』が記載している「彼は手を振ってタクシーを呼び止めた」というものではなく, 「彼はタクシーに止るように手を振った (て合図した)」である.  
b. 問題の wave 構文 He waved a taxi to stop における「タクシーが止まる」という意味は, 取り消すことができることから, 含意に他ならない.
- (28) wave のような非言語的伝達動詞と与格目的語と不定詞補文からなる構文は, 与格目的語と不定詞補



文の間に所有関係が存在するという点で、二重目的語構文と平行関係がある。

## 注

\*草稿の段階で、阿部幸一氏より貴重なコメントを頂戴した。ここに記して謝意を表したい。

- <sup>1</sup> インフォーマントは、Lydbury Language Forum の 3 人の moderator である。
- <sup>2</sup> 動詞 signal の場合は、Huddleston and Pullum (2002:1231) は自動詞用法しか認めてないようであるが、Our teacher signaled (to) us to stand up. は容認され前置詞 to は随意的 (optional) であり、語法の複雑さを示している。この問題については、別の機会に譲ることにする。
- <sup>3</sup> ただし、登田 (2008) では、The nurses came out to wave Granddad goodbye, but he didn't notice it という不定詞補文に問題の構文が生起する文について、インフォーマントが示した奇妙であるという容認性の判断に基づいて、祖父が挨拶を受けたという所有の文意は含意ではないという分析を行った。小論では問題の構文に限定していることに注意。
- <sup>4</sup> 構文的意味と動詞の関係の詳細については、Rappaport Hovav and Levin (2008) および Croft (2012) 等を参照
- <sup>5</sup> 構文が多様性を示すと思われるような現象は、文法を複雑化しているように一見すると思えるが、構文間の平行性あるいは関係性を維持しつつ、一方で文法が単純化を図ろうとしていることも示すと考えられる。構文の複雑性と文法の詳細については、Culicover (2013) を参照。

## 参考文献

- Bolinger, Dwight (1977) *Meaning and Form*, Longman, London.
- Croft, William (2012) *Verbs: Aspect and Causal Structure*, Oxford University Press, Oxford.
- Culicover, Peter W. (2013) *Grammar and Complexity: Language at the Intersection of Competence and Performance*, Oxford University Press, Oxford.
- Culicover, Peter and Ray Jackendoff (2005) *Simpler Syntax*, Oxford University Press, Oxford.
- Huddleston, Rodney and Geoffrey K. Pullum (2002) *The Cambridge Grammar of the English Language*, Cambridge University Press, Cambridge.
- Levin, Beth (1993) *English Verb Classes and Alternations: A Preliminary Investigation*, University of Chicago Press, Chicago.
- Rappaport Hovav, Malka and Beth Levin (2008) "The English Dative Alternation: The Case for Verb Sensitivity," *Journal of Linguistics* 44, 129-167.
- Schlesinger, Izchak M. (1995) "On the Semantics of the Object," *The Verb in Contemporary English: Theory and Description*, ed. by Bas Aarts and Charles F. Meyer, 54-74, Cambridge University Press, Cambridge.
- 登田龍彦 (2006) 「I hugged him good-bye について：非言語的伝達動詞と二重目的語構文」『ことばの絆』(藤原保明博士還暦記念論文集), 山田英二他編, 175-188, 開拓社, 東京。
- 登田龍彦 (2007) 「多義性と意味変化における構文の役割について」, 『熊本大学教育学部紀要, 人文科学』第 56 号, 219-228.
- 登田龍彦 (2008) 「動詞 hand, write, wave における与格交替—使役移動と使役所有一」, 『熊本大学教育学部紀要, 人文科学』第 57 号, 49-57.

## 辞書・コーパス

- 小西友七・南出康世 (編) (2006) 『ジーニアス英和辞典 (第四版)』, 大修館, 東京。
- Oxford English Dictionary Second Edition on CD-ROM Version 4.0.*
- 新村 出 (編) (2008) 『広辞苑 (第六版)』, 岩波書店, 東京。
- Stevenson, Angus and Maurice Waite (1995) *The Concise Oxford Dictionary*, Oxford University Press, Oxford.
- Summers, Della (2001<sup>3</sup>) *Longman Dictionary of Contemporary English Third Edition with New Words Supplement*, Longman, London.
- 竹林滋 (編) (2002) 『新英和大辞典 (第六版)』, 研究社, 東京。
- Thompson, Delia (1995<sup>9</sup>) *The Concise Oxford Dictionary of Current English*, Clarendon Press, Oxford.
- Google N-gram viewer, 1800-2000.